

チームメディカル (TM) 最新の状況 2018/7/23

7月23日(月) 東京医科歯科大学 高大連携プログラムへの参加

高校1、2年生13名で、東京医科歯科大学の高大連携プログラムに参加してきました。戸山高校のほか、西高校、筑波大学附属高校の生徒も一緒でした。

午前中の内容は4グループに分かれ、①心臓の聴診や肺の聴診、②医療面接の様子の見学、③内視鏡手術手技トレーニング、④救急蘇生実習を行いました。

①の心臓や肺の聴診では、聴診器をマネキンにあてて、正常なときの音と疾患がある場合の音の聴き比べをしました。聴診器は用途に応じて裏表両面を使うことを初めて知りました。

②の医療面接の様子は、DVDの視聴でした。医学部生が実際の患者さんにどのようにして接したらよいのかを勉強しました。医師の言葉は患者さんやその家族に大きな影響を与えます。その重みを理解したうえで、患者さんやその家族の方々に尊重しながら、体調の変化や患者さんの様子について、話を聴いて言っているのが印象的でした。

③の内視鏡手術手技トレーニングは、バーチャルで腸内の腫瘍を焼き切る体験や、縫合の練習体験を行いました。2D画面では奥行きをはかることが難しく、大変繊細な技術を習得しなくてはならないことがわかりました。

④の救急蘇生実習では、病室での救急蘇生実習の様子をDVDで見学しました。多くの医師や看護師が迅速かつ的確に指示や行動をしていて、チームプレーの重要性を認識しました。



聴診体験



聴診体験



内視鏡手術体験

午後は、研究室に案内していただき、先生や医学生たちからレクチャーを受けながら体験実習を行いました。東京医科歯科大学では4年生になると半年間研究室に所属し、その後の進路選択(どの科に行くかなど)に活かしていくそうです。あるグループは、「免疫アレルギー学」の研究室で、アレルギー反応はどのようにして起きるのかという講義を受け、実習を体験しました。医療にはまだまだ解明されていないことがたくさんあり、それを研究し明らかにしていくことで、社会のために大きく貢献できるというお話がとても印象的でした。

研究室訪問



最後は、東京医科歯科大学に在学している 2 名の医学生（都立西高校卒）との交流でした。大学での勉強は本当に大変で、特に 2 年生ではテストがたくさんあり、膨大な量の知識を覚えなくてはならず、大学受験のときより勉強していたかも…とおっしゃっていました。高校生に医学部受験に向けて、「1・2 年生で苦手科目を作らないようにコツコツと文系科目もしっかりやっておくことが大切」とアドバイスをいただきました。「東京医科歯科大学に入って人生観や価値観が変わったことはありますか？」という質問に対し、「勉強も部活も、何でも頑張る人がたくさんいて、そのような人たちと出会えたことがよかった」、「超名門校出身の人が多く、最初は不安だったが、案外やれる。都立出身だからといって引け目を感じることはない」というお答えでした。たくさんの質問がありましたが、先輩方はすべてに丁寧に答えてくれました。

今回の体験は、医師や研究職として社会に貢献していくという高い志を持っている先生方や医学生たちと接することができ、大変貴重な時間となりました。



都立高校卒業生との交流